

社会教育だより

編集・発行:相双教育事務所長 佐藤 由弘



令和元年度高校生によるビブリオバトル 福島県大会浜通り地区予選会

10月5日(土)に、いわき産業創造館(ラトブ)にて、「令和元年度高校生によるビブリオバトル福島県大会浜通り地区予選会」を行いました。

この事業は「中学生・高校生が様々な分野の本に触れる機会をとおして、読書の楽しさを知り自ら進んで読書に親しむきっかけをつくる」とともに、望ましい読書習慣の形成に寄与すること」を目指しています。(今回は高校生を対象とした浜通り地区予選会でした。)

予選会には以下の11名の生徒が参加しました。まず抽選で2つのブロックに分かれて予選を行い、各ブロックの上位2名、計4名による決勝を行いました。どの発表者も工夫を凝らしながら、お気に入りの本について熱く語る姿が大変印象的でした。

ビブリオバトルとは、お気に入りの本を持ち寄ってその本の魅力を5分間で紹介し合い、観戦者の投票によって一番読みたい本(チャンプ本)を決める書評ゲームです。

Aブロック

| 氏名 | 所属高校 | 紹介した本(作者名) | |
|-------|----------|----------------|-------|
| 渡邊 匠 | 小高産業技術高校 | A(中村文則) | |
| 中谷 冬馬 | 四倉高校 | お引越し(真梨幸子) | |
| 依田 輝 | 磐城高校 | 54字の物語(氏田雄介) | 決勝進出! |
| 油座 愛菜 | 小名浜高校 | 記憶破断者(小林泰三) | |
| 舘 睦海 | いわき総合高校 | フーガはユーガ(伊坂幸太郎) | |
| 吉田 快斗 | 磐城高校 | 不道德教育講座(三島由紀夫) | 決勝進出! |

Bブロック

| 氏名 | 所属高校 | 紹介した本(作者名) | |
|--------|----------|--------------------------------|-------|
| 芦口 まな伽 | 磐城高校 | I LOVE YOUの訳し方(望月竜馬) | 決勝進出! |
| 上遠野ひかり | 郡山東高校 | 薬屋のひとりごと(日向夏) | 決勝進出! |
| 木幡 涼介 | 小高産業技術高校 | お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件(佐伯さん) | |
| 佐藤 光貴 | 四倉高校 | 1日1問!面白いほど地頭力がつく思考実験(北村良子) | |
| 中村 陽歌 | 四倉高校 | 多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ(Jam) | |

決勝の結果、県大会に出場するチャンプ本は「不道德教育講座」(磐城高校の吉田快斗さん)、準チャンプ本は「54字の物語」(磐城高校の依田輝さん)に決定しました。

県大会(中学生・高校生)は、11月9日(土)福島県立図書館で開催いたします。

また、今回観戦した皆様からの発表者へのメッセージもご紹介します。

- 多くの人の前で堂々と自分の発表ができるのは素晴らしい、立派だと思う。レベルも高かったと思う。
- これからの時代を担う若い力を感じた。自分の感じたことを、自分の言葉で、いろいろな人に、いろいろな場で伝えていって欲しいと思った。楽しい時間をありがとうございました。
- みなさん話が上手で、どの本も読んでみたいと思った。本の良さを伝えるということは、どんな場面でも役立つことだと思う。これからも、ビブリオバトルに限らず、周りの人に自分の好きな本を紹介するということをしていって欲しいと思う。
- キラキラした瞳で発表されていて、みなさん本がとても好きなんだというのが伝わった。
- とても緊張されたと思うが、高校生の今、貴重な体験ができたと思う。これからも、たくさんのステキな本との出会いが続きますように。
- 勉強で忙しい中、ビブリオバトルのために時間を使って良い本を紹介してくださって、ありがとうございます。高校生だからこそ感じる見方を伺えて、同じ本でも深く読むことができそう。気づかない、また、もう忘れてしまった感性を呼び戻したような素晴らしい時間だった。



「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい事業」



毎年恒例となりました「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい事業」ですが、今年度も各学校のご協力のおかげで、相双域内で6,567点の応募がありました。ありがとうございました。

9月26日には、退職校長会相馬支部・双葉支部の15名の皆様にご協力いただき、第一次審査会を行いました。

第一次審査を通過した作品は、今後県の第二次審査、最終審査を経て、12月に入賞作品が発表される予定です。どうぞお楽しみに！

【応募していただいた保護者の皆様の感想】

人と人をつなげるよい事業だと思います。素敵な作品がうまれますように。

毎年参加させていただいています。親子で一緒に取り組める事で良い体験をしていると思います。

小学校最後の「十七字」となりました。小学一年の時からの作品を思いだし、娘の成長やその時々思い出がよみがえり、改めて親子の絆や県内の復興を感じました。

夏が来るたび、十七字を通して日常や復興を改めて思い返すことができます。

毎年楽しく取り組んでいます。たった十七音。でもこの十七字のために、ふれあいも多くなります。

同じ感動を共有できることがとてもうれしいです。一緒に考えるのを夏休みの楽しみにしています。